

議 事 録

件 名	大網白里市総合教育会議
日 時	令和2年2月6日（木） 12:35～13:35
会 場	大網東小学校会議室
出席者	<p>【構成員】</p> <p>市 長 金坂 昌典</p> <p>教育委員会</p> <p>教育長職務代理者 齋藤 壽彌</p> <p>委 員 椎名 英子</p> <p>委 員 今井 克典</p> <p>委 員 炭田 弥奈子</p> <p>教 育 長 深田 義之</p> <p>【事務局関係】</p> <p>管理課長 古内 衛</p> <p>管理課学校教育室長 加藤 温</p> <p>管理課主幹 藤田 幸之介</p> <p>管理課副課長 石井 一正</p> <p>管理課副主幹 清水 健広</p> <p>管理課総務班長 須永 陽子</p>
傍 聴 人	なし
議 題	情報化社会における、コンピュータを活用した教育の充実について (小学校におけるプログラミング教育導入にあたって)
<p>1. 開会</p> <p>2. 市長あいさつ</p> <p>本日は、ご多忙のところ、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。 また、教育委員の皆様におかれましては、日頃から本市教育行政の推進にご尽力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。</p> <p>さて、昨年度の総合教育会議では、特別な支援を必要とする子どもへの適切かつ継続的な教育的支援のあり方について、ご議論をいただいたところでございます。</p> <p>今回は、令和2年度から実施される新学習指導要領において、小学校でのプログラミング教育が必修化されることから、『情報化社会における、コンピュータを活用した教育の充実について』を議題に、プログラミング教育導入にあたっての今後の取り組み等につきまして意見交換をさせていただきたいと思っております。</p> <p>今日の教育が抱える課題は多岐に及びますが、このような場において、市長部局と教育委員会とが互いに共通認識を持ち、課題の解決に向け協議していくことは大</p>	

変重要であると認識しております。これより、先ほどの授業展開内容を踏まえ、協議を進めてまいります。この会議を実りあるものとするべく、皆様におかれましては忌憚のない意見等をいただきたいと存じます。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

3. 議題

(1) 情報化社会における、コンピュータを活用した教育の充実について

(小学校におけるプログラミング教育導入にあたって)

(金坂市長)

本日の議題は、「情報化社会における、コンピュータを活用した教育の充実について」(小学校におけるプログラミング教育導入にあたって)ということでございます。

先ほど、プログラミング教育の授業を参観頂きましたが、まずは教育委員の皆様のご感想などをお話して頂ければと思います。

(齋藤教育長職務代理者)

我々が受けていたアナログ授業と違い、とても新鮮な気持ちで拝見しました。先ほど市長からもありましたが、今、教育行政の中で特に英語教育のスピーチの部分とコンピュータを活用する教育が昭和の時代と一番違い、まさしくグローバル化に向けた教育だと思います。我が市においても、これほど進んだプログラミング教育が行われているとは思っていませんでした。大変興味深く拝見しました。

(椎名委員)

とても楽しい授業でした。私も実際にパソコン操作を行わせて頂いたのですが、途中で操作がわからなくなってしまいました。子どもたちがスラスラと授業に取り組んでいる姿を拝見し、これからの可能性をとても感じました。先日、加藤副参事からプログラミング教育についてご説明頂いたとき、指示したものが目に見えることで意欲が湧くということでしたが、まさにその通りだと思いました。

(今井委員)

今日の授業を拝見しまして、子どもたちが非常に楽しく取り組んでいる姿が印象的でした。私もパソコン操作を行わせて頂いたのですが、子どもたちを見ているよりも、自分の操作に夢中になってしまうほど、楽しい授業でした。現代は、パソコンがとても重要なツールになっていると思います。仕事において、パソコンを使用しないことは考えられなくなっているため、その取りかかりとして小学校からプログラミング教育が導入されることはとても意義があることだと思います。

(炭田委員)

とても楽しく拝見させて頂きました。画面の中でロボットが動くということが、子どもたちにとってゲーム感覚で、楽しく学ぶことができる様子を見ることができました。また、目の前に居た児童が、不正解を繰り返していたので、どのように解決するのか見ていたところ、角度を変更し入力することに気づいてからは、どんど

ん次の課題をクリアし進んでいく様子を見て、子どもたちの能力の素晴らしさを改めて感じました。

(金坂市長)

パソコンを使った授業については、最近の保護者の方であれば見てると思いますが、我々の頃はなく、息子の時代もなかったと思います。費用をかけても整備していく必要があると思いますし、また本日の授業で使用したのはネット上からダウンロードできるフリーソフトなのでとても良いと思います。

一時期、科学系の雑誌からセールスが来ており、ソフトが大変高額でしたが、今はほとんどフリーソフトを使用しているのですか。

(事務局)

「スクラッチ」というソフトを市内の小学校に導入しており、これはネットからダウンロードし使用させて頂いております。

(金坂市長)

このように活用方法について、知恵を絞って頂き大変良いことだと思います。

次に、事務局から、コンピュータを活用した学習の現状や小学校へのプログラミング教育の導入について説明と報告をお願いします。

(事務局)

それではまずはじめに、「コンピュータを活用した学習の現状」についてご説明いたします。資料1をご覧ください。本市のICT機器の整備状況とICT機器を活用した実践状況です。ハード面として、2in1タブレット型パソコン、プロジェクター、プリンタ、スキャナー、実物投影機、大型テレビモニタ等を整備しています。また、ソフト面として、授業支援ソフトや、学習支援ソフト、統合ソフトなどを整備しています。これらのICTを効果的に活用した授業の実践が進められており、児童生徒の学習意欲の向上や学習課題の明確化、思考を深める学習、対話的な協同学習など様々な学習場面に応じて教科指導を行っています。

また、総合的な学習の時間では、発達段階に応じたコンピュータ教育が位置づけられています。コンピュータの操作の仕方から始まり、それらを活用して、知りたい情報を調べたり、情報を整理したり、まとめて発表したりという学習活動を主体的に行っています。

そして、小学校3・4年生では英語活動、5・6年生では教科として外国語が本格的にスタートし、大型テレビモニタやラジカセ等を活用して、音声や映像を効果的に取り入れ、楽しみながら外国語教育の充実を図っています。

他には、情報モラル教育やスマホ・ケータイ安全教室の実施など、情報やソーシャルネットワークサービス、スマートフォン等の情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための教育についても取り組んでいるところです。

次に、プログラミング教育についてご説明いたします。午前中に、プログラミング教育の授業を参観していただいたところですが、「なぜ小学校にプログラミング教

育を導入するのか」ということについて一言で申しますと、社会的背景の大きく変化していることがあげられます。コンピュータは私たちの生活の様々な場面で活用されています。近年、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきています。

そして、人工知能やビッグデータ、IoT等の技術の急速な進展に伴い、社会の在り方そのものが現在とは「非連続的」と言えるほど劇的に変わる「Society5.0」時代の到来が予想されています。仕事や学習、プライベートな時間などあらゆる生活場面において、情報を適切に選択したり、活用したりして問題を解決していくことが不可欠な社会になりつつあります。コンピュータは決して「魔法の箱」ではなく、日常生活をより豊かにしていくツールとして、情報技術をより主体的に、効果的に活用していくことが求められています。社会生活の中でICTを日常的に活用することが当たり前の世の中になっていくなかで、「プログラミング教育」は子供が秘めている可能性を発掘し、将来の社会で活躍できるきっかけとなることが期待されています。

このように、コンピュータを理解し、上手に活用していく力を身につけることは、あらゆる活動においてコンピュータなどを活用することが求められる、これからの社会を生きていく子供たちにとって、将来どのような職業につくとしても、極めて重要なこととなっています。諸外国においても、初等教育の段階からプログラミング教育を導入する動きが見られます。こうしたことから、このたびの学習指導要領改訂において、小・中・高等学校を通じてプログラミング教育を充実することとし、2020年度から小学校においてもプログラミング教育を導入することとなりました。

次に、『プログラミング教育』とは何かということです。まず一つに、「情報活用能力の育成を図ること」が挙げられます。そのために、児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な、論理的思考力を身につけるための学習活動を充実させることが求められています。情報技術を効果的に活用して、論理的・創造的に思考し、課題を発見・解決していくために、「プログラミング的思考」が必要であり、今後普遍的に求められる力であるとしています。「プログラミング的思考」とは、自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力のことです。

次に、「プログラミング教育のねらい」についてです。

小学校では、児童に「コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるといこと」を各教科で体験させながら、「情報活用能力」を構成する資質・能力を育成することがねらいとされています。具体的に申しますと、「プログラミング的思考を育むこと」、「プログラムの働きのよさや、情報社会がコンピュータなどの情報技術によって支えられていることに気づくことができるようにするとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと」、「各教科等の学びをより確実なものにすること」

など、大きく3つの柱に整理することができます。

次に、プログラミング教育の実施に向けて、本市の取組をご説明いたします。 県主催のプログラミング教育研修会に市内小学校教員を参加させるとともに、本市主催の研修会を、平成30年度、令和元年度と専門の講師の先生を招聘して、研修会を実施しております。そして、今年度、市内全小学校のパソコン教室にプログラミングソフト「スクラッチ」を導入し、環境面の整備を整えたところです。

事務局からは以上でございます。

(金坂市長)

ただ今、事務局から小学校におけるプログラミング教育導入にあたって、教育内容や目的などについての説明と報告がありました。深田教育長から補足説明等があればお願いします。

(深田教育長)

特にございません。

(金坂市長)

事務局から説明がございましたが、これらについて何か質問等がございますでしょうか。

(齋藤教育長職務代理者)

研修会というのは、先生方全員が受講したのですか。

(事務局)

全員ではなく、各校から2～3名以上に参加して頂くというところで行いました。

(金坂市長)

それでは、保護者の立場から、子どもたちを取り巻く情報化社会の現状、具体的には、情報化社会が進展することにより良くなった点（メリット）と心配な点（リスク）についてお話を頂ければと思います。椎名委員お願いします。

(椎名委員)

私の子どもが中学生だった7・8年前は、まだそれほど携帯電話の普及率が、今と比較するとそれほど進んでなかったと思いますので、中学生までは携帯電話を持たせないという選択をすることは、それほど難しいことではありませんでした。今は、所有率がとても高くなっていることが伺えるので、保護者の方々は、持たせるか否かをとても悩んでいると思います。メリットはもちろん、どこに居ても世界の情報がすべて手に入ることで、私たち大人も便利に使っています。子どもたちも同じだと思います。その反面リスクも高く犯罪に巻き込まれてしまうことが後を絶たないのが現状です。子どもたちに持たせるにしてもしなくても、親がどのように考え、子どもたちに接するのか明確にする必要があると感じています。また去年は特

に多かった災害時の緊急連絡方法として持たせるといった考えが出てきていると思うので、今後学校の判断も難しくはなるとは思います。良い面と悪い面が常にあると思います。

(金坂市長)

今、携帯のお話がありましたが、小学生はどのくらい持っているのでしょうか。

(事務局)

小学生に限っての所持率は調査しておりません。ただ、学校によっては報告があり、それを見ると完全に携帯を持たせているというのは数%です。ただ、親のものを使って友達同士でラインやメールをするという使い方をさせているということを知っています。

(金坂市長)

学校には、携帯電話をもってきてはいけないのですか。

(事務局)

学校に持ってくるには、申請書等を提出してもらいますが、学校の敷地内での利用はしない約束をほとんどの学校がしています。

(金坂市長)

資料1の情報活用教育の実践にある、「スマホ・ケータイ安全教室の実施」、これについてですが、親にとっては本当に心配なことで、携帯等を使い始める前から子どもたちに教えていくことはとても大切なことだと思います。手軽にいろいろな情報が入ってきますが、ちょっとタッチしただけで危険を伴う場合もあるので安全教室などに力を入れて頂きたいと思います。

(事務局)

スマホ・ケータイ安全教室については、各学校で実施しており小学校5、6年生の高学年を対象に、中学校に向けてと、小学生でも所持率の上がるこの時期に開催している学校が多く見受けられます。講師は、各携帯会社の方で、各学校で申し込みを行い開催しています。

(金坂市長)

業者の方であれば、実際のトラブルなどの話も聞くことができると思います。

(事務局)

実際に起きた事例を挙げて、ドラマ仕立ての漫画や映像など各社が工夫をして解りやすい構成にし、子どもたちにスマホや携帯のリスクなどを伝えています。

(齋藤教育長職務代理者)

これだけ便利な世の中になると、それだけ危険も伴うのでリスク管理をする必要があると思います。

(今井委員)

この安全教室は子どもたちを対象にしているのですか。

(事務局)

基本的には、子どもたちを対象にしていますが、家庭教育学級で保護者と一緒に受講するところもあります。

(金坂市長)

保護者の視点から炭田委員の意見をお願いします。

(炭田委員)

子どもの様子を見ていますと、4年生くらいから持ち始めています。塾通いの子どもや両親が共働きの子どもは、親との連絡手段としてや、コミュニケーションツールとして持ち始めているようです。良い点としては、いつでも親子で連絡が取れることで、徒歩での通学時間が40～50分かかる家庭では、道中の安全のため携帯等を持たせているということも聞きます。また、小さい子どもがグーグル先生に聞けば解るといって、文字入力ができなくても音声で調べたりしています。このように誰でもいろんな情報が簡単に手に入り大変便利となっていますが、検索した情報が古い可能性もあるなど、必ずしもその情報が正しいとは限らないため自分で見極める力が必要で、あふれすぎているいろいろな情報に振り回されないようにしなければならぬと思っています。先日、友人から受けた相談ですが、中学1年生のお嬢さんが、周りには居ないからと、スマホで同じアイドルのファンを見つけ、私たちに考えられないことですが、顔も知らない人との出会いを求めて、その相手が共通の趣味を持つ友達だといいい、待ち合わせをして一緒にコンサートに行き夏休みに家に遊びに来る約束をしていて親が大変心配していました。待ち合わせ場所は人目につく改札口などにして、若いふりをした年配の可能性もあるので相手の写真を送ってもらったりして、気をつけるよう配慮したそうです。今後このようなことが当たり前になってしまうのではないかととても心配になりました。

(金坂市長)

今後、子どもたちが情報化社会で生きていく上で、コンピュータを始めとした情報機器にどのように関わらせ、どんなことを身につけていけば良いのか、今までお話し頂いた以外で、何かお考えがあればお願いします。また、学校におけるコンピュータやネットワーク環境整備についてもお考えを頂きたいと思います。

(齋藤教育長職務代理者)

子どもたちが大人になっていく中で、プログラミング教育やスマホを初めとする情報機器を使うことは避けては通れない時代だと思います。先ほど申し上げたとお

り、便利である一方、リスクが伴うことを研修等でしっかり子どもたちに伝えて頂くことが必要だと思います。情報教育にこれだけのお金をかけて取り組むにあたり、各学校2～3名の先生の研修で、本日のような授業を全校生徒に行いレベルアップさせるのは大変なことだと思います。機器の導入にだけ先走るのではなく、長期的に取り組まなければならないと思います。スマホを子どもたち全員が持てるものなのでしょうか。経済的に支援を受けている家庭は持てないなど家庭による格差が出た場合、学校として配慮する必要が出てくるのではないかと気になります。

(金坂市長)

携帯にかぎらず、いろいろなところで格差があると思いますが、学校としてはどのような対応を考えているのでしょうか。

(事務局)

物にもよると思いますが、学校には基本的に電器機器の持ち込みはせず、学校にある物を使用することとなっています。携帯電話については学校内では使わないので、格差については感じないような対応となっております。

(金坂市長)

申請により携帯等の持ち込みを許可していますがどうですか。

(事務局)

携帯等の使用については、下校後、直接自宅に帰らず塾等に行く子どもが送迎のため親との連絡手段としており、学校内の教育活動では使わないため問題はないと考えています。

(椎名委員)

プログラミング教育を行うにあたり、すでに英語や道徳そしてプログラミング教育があり、先生方が心に余裕や自信を持って授業を行うには、支援が重要だと思います。自治体によっては民間委託をしアドバイザー契約をしたりしていると聞いています。大網白里市では、先生方をどのように支援していくのか、また先生方が今、どのように考えているのかお伺いしたいと思います。

(事務局)

まず、プログラミング教育が次年度からスタートしますが、準備期間が約3年ほどありました。全教職員が研修を受けていたわけではありませんが、受講した先生が校内の先生方に伝達していく方式にしております。実際には、受講したことを基に少し取りかかり始めた段階で、本日のような授業を全員ができる状態ではないので、本市としては先生方への研修の充実をよりはかれるよう取り組んでいきたいと考えております。また、先ほどスクラッチの導入について話をしましたが、プログラミング教育はそれだけではなく、様々な物があり、教科書についているものもあるので、先生方にとって使い勝手の良い物から取り組んで頂き無理なく進めたいと

考えています。

(事務局)

先生方はどんどん新しい物が導入され、それに伴って準備も必要となり、働き方改革も叫ばれている状況で苦慮しています。新しい物について全ての教諭がプロフェッショナルになるのは難しいと思います。例えば、各学校で核となる教員を育て、その先生を中心に広げていくのも1つであると考えています。プログラミング教育は教科ではありません。今回は算数で行いましたが、外国語の得意な教員がいれば交換授業をするなど、各学校の職員構成の実態に応じて取り組んでいくことも考えながら、支援体制を検討していきたいと思っています。

(今井委員)

先ほどから話があるように、スマホやパソコンなどを使うことによって、多くの情報が手軽に得られますが、その中で自分が本当に必要な情報を選ぶ力をつける必要があると思います。情報の中には危険なもの、古いもの、間違ったものもあるので、選別する力が大切だと思います。スマホやパソコンの使い方のルールを安全教室などを実施し学んでいるようですが、学校と家庭の連携をとりながらを、家庭においてもマナーを教える必要があるのではないかと感じました。今日、授業を見せて頂いたが、各学校が同じようなレベルでハード面とソフト面、先生方の研修によって充実したプログラミング教育として結びつけば良いと思います。

(炭田委員)

今の中学2年生の子どもから、プログラミング教育が大学入試の教科になると聞いたが事実でしょうか。

(事務局)

大学の入試科目になるかどうかは解らないのですが、論理的に物事を考え解き進めていくという点で、プログラミング教育的な思考として含まれているのかもしれないと思います。

(炭田委員)

高校入試の前期後期も、今の3年生から無くなるはずが来年度になったり、何かシステムが変わるといっておきながら、やっぱり無理ですとなると、子どもたちが翻弄されてしまいます。もっと段階を踏んでシステムができてから変えて欲しいと親の立場として感じます。子どもたちが振り回されてしまうので、そのようなことにならない環境作りをして頂きたいと思っています。

(金坂市長)

教育長に伺いますが、コンピュータ教育の必要性について、また小学校におけるプログラミング教育への対応についてお聞かせください。

(深田教育長)

プログラミング教育は、令和2年度から小学校において実施されます。その目的については、根拠となる学習指導要領をひもといてみる必要があります。

新学習指導要領の基本的な考え方は、「学校の教育活動を進めるにあたっては、各学校において主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、児童に生きる力を育むことを目指すものとする。」と示されています。

そして、その目的を達成するための手段として、コンピュータを活用したプログラミング教育が必要だとしています。児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要とされる論理的思考力が身につく学習活動を、意図的に計画することが求められています。今日は、算数という教科を通し、そのことが試みられました。

ここで、時代とともに変化してきた学習指導要領の変遷を振り返ってみたいと思います。

1947年(S22年)に、初めて国から学習指導要領が示されました。戦争を行ったことの反省を受けて修身や地理、歴史が廃止され、社会科という教科が新設されました。小学校の教科に自由研究が新設され、中学校は選択教科ができました。

1956年(S31年)の改訂は、高等学校のみの改訂でした。特別教育活動としてホームルームやクラブ活動、委員会活動が導入されました。

1961年(S36年)の改訂では、科学技術教育を重視したカリキュラムが示されました。また、道徳が新設されました。1957年にソ連が世界で初めてスプートニク1号を打ち上げたことにより、世界中をスプートニクショックが席卷したのです。特にショックを受けたのはアメリカで、その余波を日本が受けました。日本は、非常に濃密なカリキュラムを組みました。そのため授業が早すぎて、新幹線授業と非難され、終わらない教科もあったといわれています。

1980年(S55年)の改訂では、ゆとり教育が示されました。これは、新幹線授業(詰め込み授業)を受けての改訂で、学校裁量の時間が週3時間できました。

1992年(H4年)の改訂では、新学力観が登場しました。心豊かな人間性の育成が叫ばれ、生活科が新設されました。

2002年(H14年)には、学校週5日制となり、教育内容を厳選したカリキュラムが示されました。総合的な時間が新設され、中学校では英語が必修教科となりました。

2011年(H23年)の改訂では、生きる力を育む教育が掲げられ、脱ゆとり教育が始まりました。社会科の領土問題がありました。中学校ではダンスや武道が取り入れられました。また、日本の伝統文化を重視したカリキュラムが示されました。

2015年(H27年)には、道徳が特別な教科となりました。

そして、2020年(R2年)の改訂では、小学校において教科としての外国語(英語)が位置づけられました。対話的・主体的で深い学びという考えが示されました。改訂は、9回目となりました。

振り返って見ると、改訂の背景には、国の考えや世の中の動き、経済界の動き、

世界の動きがあり、時代とともに、教育に求められるものが変化してきたといえます。Society 5.0の社会が目前となっている現在、来たるべき時代を生きる子どもたちが、パソコンを活用しプログラミング教育を学ぶのは当然のことだろうと考えます。

続いて、プログラミング教育の実施に伴い、教育委員会としては、3つのことを考えています。

1点目は、ICT機器等を整備することです。今日はパソコンを使用しましたが、低学年の授業ではアンプラグド教材という教材を使った指導があります。ICT機器を使わずに授業を行うもので、掃除の仕方や歯磨き、給食の準備等について学ぶものです。発達段階に応じた多様な教育活動を保証する意味で、ハード面とソフト面の両面で整えていかなければならないと考えています。

2点目は、指導する教員の研修の実施です。大網東小学校のプログラミング教育に関するアンケート調査を見ると、年度当初の調査では、「プログラミングの知識があるか」という設問に16人中10人が、「プログラミング教育の授業設計ができるか」という設問には、16人中13人が、「授業実践ができるか」という設問には、16人中13人が当てはまらない。」と、回答しています。

しかし、1年間研修を行った3回目の調査では、「今ある学習内容の中から、プログラミング教育に展開できる内容を探していくことが大事だと知った。実践できそうなプログラミング教育を話し合うことで、来年度の目途がたった。研修を通して、最初は解らなかつたことも理解できた。」と、回答しています。この変化は、研修があきらかに効果があったことを示しています。今後は、他の小学校でも研修をしていく必要があると考えています。

3点目は、カリキュラムの中に、このプログラミング教育をどのように位置づけるかということです。どの教科のどの部分で行うことが効果的なのか、市全体で考えて行く必要があると考えています。

最後に、1つ気になることがあります。それは、スマホの普及により、パソコンを保有していない家庭が増えているということです。そのため、キーボードを使って文字が打てない子どもが増えているのだそうです。そのような状況を踏まえ、市教育委員会がICT機器を整備する必要があるものと考えています。

(金坂市長)

時代に合わせた対応になっているとのことですが、何か感じたことはありますか。

(齋藤教育長職務代理者)

国が4年かけて4千億円以上の予算を費やし、一人一台のパソコンを整備するということでしたが、業者の営業の売り込みが多いのではないかと思います。ソフトなどは数年経てば金額は安くなると思います。市の財政が厳しいと聞いておりますので、その辺りを見極めて計画的に柔軟で慎重な対応をお願いしたいと思います。

(金坂市長)

非常に重要なお話をいただきましたので、その辺りはしっかり対応していきたい

と思います。他に何かご意見はありますか。特にご意見はないようです。

教育長から話を頂きましたが、最初に学習指導要領ができたのが戦後まもなくということです。そこから9回の改訂を経た経緯もありますので、これからの時代背景や環境に応じて、支援あるいは対応をこれからも子どもたちのためにとという視点からしっかり行っていくことをお願いしたいと思います。

本日予定しておりました議題を終了しましたが、全体を通して何かご意見はございますでしょうか。ないようです。円滑かつ有意義な会議運営にご協力をいただきありがとうございました。

これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。これより先は、事務局に進行をお願いします。

4. その他

なし

5. 閉会

議事終了